

□ 現行の「基本的視点」に対する子ども・子育て会議での意見まとめ

【資料No.2】

	視点	現行の内容	子ども・子育て会議での意見
1	すべての子どもの幸せや健全やかな成長を第一に考える視点	保護者のニーズだけでなく、子どもたちの幸せや健全やかな成長が促されるよう取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれ育った環境に左右されることなく、将来に夢や希望が持てることが大切</li> <li>・「保護者のニーズ」ではなく「子どもの最善の利益」のため、子どもを真ん中に考える</li> </ul>
2	次代の親づくりという視点	次代の親となり、自立していくために、必要な豊かな知性・感性・考える力・体力や生活力が育つような取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来親になった時のことを子どもの頃から学ぶ必要がある</li> <li>・「自立」も大事だが、周りに関わっていく力、コミュニケーション能力をつけ、つながる力がつくことで自己肯定感が高くなる</li> </ul>
3	親の子育て力を伸ばす親育ちという視点	妊娠期から切れ目ない支援に取り組み、親として成長し、さらには子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じるができるような支援を進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てをしている親自身が子育てを楽しんでいると思うことで、子どもへ愛情をかけることができる</li> <li>・子どもを産んですぐに親になれるわけではないので、親も子どもと共に育っていくという視点が大切。</li> </ul>
4	子育てを社会全体で支援する視点	子育ては企業や地域社会を含めた社会全体で協力して取り組むべき課題であることから、次代を担う子どもやこれを育成する家庭を社会全体で支援する体制づくりに配慮しました。また、地域で子育て支援に携わる人材を育成し、最大限に活用するとともに、地域全体で子育て支援ができるようネットワークづくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できることを「おすそわけ」するような気持ちが大きな支援になっていく</li> <li>・行政ではなく、当事者主体のつながりからの情報発信が必要</li> <li>・子ども食堂などの交流の場において「おせっかい」の視点で関わることで、行政などに相談できない人が雑談の中から支援につなぐことができる</li> <li>・いろいろな家庭が増えてきており、地域がどう受け入れ、支えていくかが大切</li> </ul>
5	仕事と生活の調和実現の視点	女性が継続して働ける環境を整備するとともに、男性を含めた働き方の見直しを進め、男女がともに働き、ともに子育てをする企業風土や社会風土を醸成する取り組みを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこも仕事が忙しく、子育て支援の場でも職員に余裕がないため、ゆとりをもって子どもと関わるができるような働き方を目指す。</li> <li>・親と子の時間の確保が大切</li> <li>・行政だけでなく、企業がもっと関心を持ち、ちょっとした配慮の積み重ねで子育て中の家族が働きやすくなる</li> </ul>
6	サービスの質を高める視点	保護者のニーズが多様化している中、利用者が安心してサービスを利用できる環境を整備することが必要です。サービスを提供できる人材を育成するとともに、サービスの質を確保するよう努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍や疾病のある親などニーズの多様化に合わせたきめ細かな情報提供が必要</li> <li>・SNSを活用した情報発信が有効</li> </ul>